

連合総研「with/afterコロナの雇用・生活のセーフティネットに関する調査研究委員会」 概要

- ・発足の趣旨

新型コロナウイルスの感染拡大が進むなかで、勤労者の生活がどのような影響を受け、どのように変化しているかを明らかにし、雇用や生活に関する今後の課題、社会像等を検討する。

- ・研究期間 2021年1月～22年12月

玄田有史＋連合総研編

『セーフティネットと集団－新たなつながりを求めて』

(日経BP 日本経済新聞出版)

目次

序章 安全とつながりの手応えを得るために 玄田有史

第1章 雇用のセーフティネットを編む：中間層に届かない支援 酒井正

第2章 生活のセーフティネットを編む：誰もが利用できる安全網へ 田中聡一郎

第3章 セーフティネットの基盤を考える：必要な人に制度を届けるために 平川則男

第4章 職場の新たな「つながり」と発言：多様性のジレンマを乗り越える 松浦民恵

第5章 セーフティネットとしての集団：法と自治の視点から 神吉知郁子

第6章 ドイツの事例に学ぶ：「限界ギリギリのデリバリー運動」とは 後藤究

終章 これからのセーフティネットと集団のあり方 玄田有史



本書の問いかけ

- 雇用・生活の「**セーフティネット**」について、パンデミックへの対応を中心に制度や政策を検証し、改善に向けて提言する。
- 感染拡大が明らかにした、社会における新たなつながりの必要性和、そこから生じる「**集団**」のあり方を問う。

具体的な問い

- 生活や雇用が不安定な個人ほどセーフティネットも脆弱であるという**構造問題**をいかに解決するか。何が足りないのか。
- 多様性が分断や孤立を加速させないために、私たちは何ができるのか。そのための集団（**フレンズ**）とは？